

確実に…新名神高速道路

時間短縮

二大都市圏を最短で結ぶことにより所要時間の短縮を実現し、交通の利便性向上や生活圏の拡大など地域の活性化が期待されます。

所要時間の短縮



リダンダンシー

日本の大動脈である名神高速道路～中国自動車道には代替ルートがなく、阪神・淡路大震災においては、高速道路ネットワークが一時的に機能停止になりました。新名神高速道路はこのような重大事故や地震発生時などの緊急時に代替道路機能を果たします。



関西の高規格道路網図



①全国路線網 (高速自動車国道)	開通区間 720km
	建設事業区間 47km
	四車線化区間 49km
	六車線化区間
②全国路線網 (高速自動車国道以外)	開通区間 207km
	建設事業区間 20km
	四車線化区間 19km
関西支社管内	開通区間 927km
	建設事業区間 67km
	四車線化等区間 68km



西日本高速道路株式会社 関西支社
新名神大阪西事務所
〒569-1133 大阪府高槻市川西2-10-20
TEL.072-655-9900
FAX.072-655-9901

西日本高速道路株式会社 関西支社
新名神大阪東事務所
〒573-1171 大阪府枚方市三栗2-5-1
TEL.072-809-4740
FAX.072-809-4741



未来につながる信頼の道

新名神高速道路

八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC



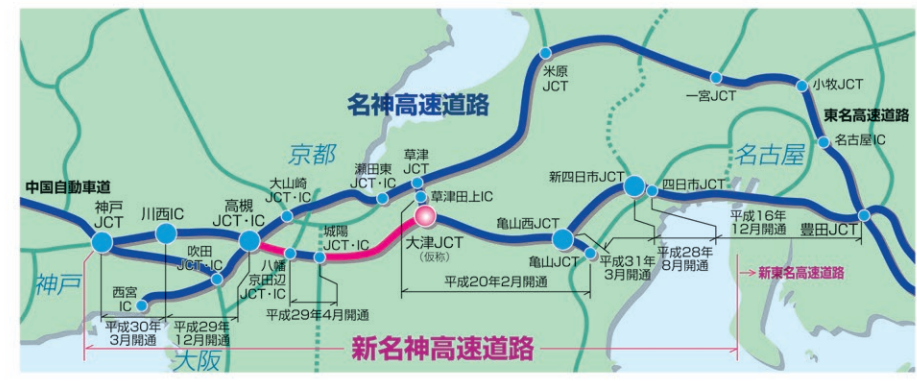
ダブルネットワークの実現でより快適に、より

新名神高速道路の目的

新名神高速道路(近畿自動車道 名古屋神戸線)は、名古屋市を起点として神戸市に至る延長約174kmの高速道路です。

昭和四十年に全線開通した現在の名神高速は、東西を結ぶ大動脈として、国民生活産業経済活動に大きな貢献をしてきましたが、現在は交通量の増加による交通混雑が頻発し、高速道路本来の機能が十分発揮できない状況になっています。

新名神高速は、名神高速等と交通機能を補完することにより、高速道路ネットワークに求められる(高速性)(定時性)(快適性)(安全性)などの機能を高めるとともに、沿道及び西日本の国民生活産業の更なる発展に寄与することを目指しています。



新名神高速道路に求められる役割

大都市間の連携強化～慢性化する渋滞～

- 新名神 高槻JCT・IC～神戸JCTの開通により、中国道の渋滞が大幅に減少しました。新名神高速道路が出来ることにより、交通が分散され、渋滞が緩和し、高いサービスレベルの確保が可能となります。

